

令和6年度 上尾市立東小学校 学校評価書

★自己評価の評価基準 A：できている B：どちらかと言えばできている C：どちらかと言えばできていない D：できていない

★学校関係者評価の評価基準 ☆自己評価と同じ評価の場合 → 自己評価は妥当であると判断 ☆自己評価と異なる評価の場合 → 学校関係者評価委員会としての見方を示す

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価基準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
I 教育目標の具現化・円滑な学校運営	1	<p>■東小は、学校（学年・学級）運営や学習指導、その他の教育活動の工夫改善に取り組み、学校教育目標（笑顔かがやく東っ子の育成）や目指す学校像（信頼を高める学校）の具現化に向かって、前進している。</p>	<p>◆安易な前例踏襲を排し、小さなことでも課題解決と改善を図るための検討や見直し、工夫に、熱意・誠意・創意をもって、真摯に取り組む。</p> <p>・校長からの合言葉「笑顔でチャンス・チャレンジ・チェンジ」の実践。</p> <p>・学校における働き方改革の推進を踏まえた上での価値ある取組の精選、実施</p>	B	<p>①笑顔輝く東っ子の育成に向けて委員会活動やにこにこ班活動を始め、学校応援団との連携など多くの活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>②保護者や児童からの信頼をより高めるためにコミュニケーションを大切にし、様々な教育活動に取り組むことができた。</p> <p>③学校は、教職員のチームワークを生かし、学校経営方針のもと学年や分掌の組織を活用し、日々の教育活動に取り組んでいる。</p> <p>◆学校は、教職員全体でさらに共通理解を図れるようにし目標の達成に向けて、チーム東小としてさらに一丸となり、声をかけ合いながら取り組んでいく必要がある。</p> <p>◆学校は、働き方改革をさらに推進し、時間外在校等時間、月45時間以内、年間360時間以内の実現を目指していく必要がある。</p> <p>◆不登校児童への対応やいじめ対応を起きてからの対応だけでなく、予防的な取組について、さらに充実させていく必要がある。</p>	B	<p>・働き方改革による、時短、省力のために様々なPTA活動が省かれてしまった。改革ならば省くだけではなく、時流にあった新しい事業を起こすべき。</p> <p>・全国の不登校数が34万人と昨年より10%以上増加しているが当校では13人とのこと。働き方改革で増加しないことを望む。</p> <p>・校内や先生の前ではマナーは守るが、登下校では道幅いっぱい横並びで歩くので、高学年は注意しても直さない。</p> <p>・働き方改革を重視しすぎて子供たちに必要な行事や清掃が減り、心の豊かさが失われていると危惧している。</p> <p>・学校運営協議会の開催の周知に、さくら連絡網を活用するなど、委員から提案された事項を即座に取り入れ柔軟に対応していました。</p>
	2	<p>■東小は、信頼の向上に努めるため、積極的にマナーアップの実践に取り組んでいる。</p>	<p>◆児童から信頼される教師となり、保護者から信頼される教育を行い、地域から信頼される学校を創ることを念頭に置き、常に自らの振る舞いを振り返る。</p> <p>・あいさつ、丁寧な言葉遣いの率先垂範</p> <p>・電話のさわやかな対応の実践</p> <p>・何事にも誠意ある丁寧な対応</p> <p>・児童との温かい人間関係の構築</p>	B	<p>◆学校は、教職員全体でさらに共通理解を図れるようにし目標の達成に向けて、チーム東小としてさらに一丸となり、声をかけ合いながら取り組んでいく必要がある。</p> <p>◆学校は、働き方改革をさらに推進し、時間外在校等時間、月45時間以内、年間360時間以内の実現を目指していく必要がある。</p> <p>◆不登校児童への対応やいじめ対応を起きてからの対応だけでなく、予防的な取組について、さらに充実させていく必要がある。</p>	B	<p>・働き方改革で効率的な仕事をして、家庭サービスや自身のスキルアップに努めてほしい。</p> <p>・授業を参観させていただいた際に、児童が気さくに先生方に話しかけている光景を見て、先生方が児童に慕われている印象を持ち、良い関係が築けていると思いました。</p>
	3	<p>■東小は、教職員それぞれが能力を発揮し、各自の分掌（役割）や各学年が連携・協力して、質の高い学校づくりを目指す体制を構築している。</p>	<p>◆教職員それぞれがチームワーク行動を発揮して、組織力の充実を図る。</p> <p>・キャリア段階に応じたチームワーク行動の重点の実践</p> <p>・毎日のグループウェアでの指示伝達・連絡事項の確認、情報共有、共通行動</p> <p>・深い学びを追求する教材研究</p>	A	<p>◆不登校児童への対応やいじめ対応を起きてからの対応だけでなく、予防的な取組について、さらに充実させていく必要がある。</p>	A	<p>・先生達のチームワークを見る機会がなくわかりません。</p> <p>・東小スポーツdayでは、開催前日の悪天候によるグラウンドコンディションの不良等に対応するため、多くの教職員の皆さんが協力して対応していました。</p> <p>・チームワークが備わることで、一枚岩での教育につながり、また授業の実施方法等についても切磋琢磨が期待されることから、引き続き教職員間の良好な関係の構築をお願いします。</p>

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
II 学力を向上させる学習指導	4	<p>■東小は、教職員研修を積極的に推進し、教職員の資質を高め、指導力及び業務遂行力の向上を図っている。</p>	<p>◆市教委委嘱研究の取組を推進するとともに職員研修の充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究及び研究協議の実施 ・日々の業務に必要な研修の実施 ・グループウェアの記事をおとした自己研鑽 ・外部講師を招聘した研修の実施 	B	<p>④学校は、児童が分かる授業を常に目指し、研鑽を重ねている。</p> <p>⑤実践を重ねている。</p> <p>⑥学校は「あげお学びのイノベーション」を推進し、ICT端末の活用率を向上させた。また、持ち帰りも一部実現できた。</p> <p>⑦「英語活動・外国語活動・外国語」の授業に焦点をあて、全学年で授業を公開し合う等、授業力の向上が図れた。</p> <p>⑧学校は、児童に読書を親しませる機会をつくるために、イベントを企画したり、図書館の環境を整えたりした（壁紙の張替え。蛍光管の交換等）。学校図書館の貸し出し数も昨年度よりも増加している。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の研究発表会や研修会には積極的に参加する。 ・どれくらい研修し、研究していらっしゃるのか見る機会なくわかりません。 ・委嘱研究では、英語を使って楽しく伝えあうためにはどうしたらよいか仮説を立て、3つの部会でそれを実践できるよう取り組んだ結果、英語の授業が好きと答えた児童の割合が増加しました。また、アンケートにより課題を洗い出したことで、今後の取組にもつながると思います。
	5	<p>■東小は、教育課程や指導方法を工夫改善し、児童の主体的に学習に取り組む態度を高め、学力の定着に努めている。</p>	<p>◆創意工夫を生かした教育指導の実施、主体的・対話的で深い学びに通じる実践、基礎学力の育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントの実践 ・学力向上プランの策定と実行 ・自己有用感を得られる場づくり ・一部教科担任制、コース別学習の実施 ・ユニバーサルデザインへの配慮 ・認めてほめて伸ばす教育の実践 	B	<p>⑧学校は、児童に読書を親しませる機会をつくるために、イベントを企画したり、図書館の環境を整えたりした（壁紙の張替え。蛍光管の交換等）。学校図書館の貸し出し数も昨年度よりも増加している。</p> <p>⑧学校応援団の支援もあり、上級生が下級生に本の紹介をするなど積極的に取り組んでいます。</p> <p>◆学校は、児童の学力をさらに向上させていくためにも、個別最適な学びを実現できるよう常に指導方法の改善に取り組んでいく必要がある。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年担任同士のチームワークをよくし、情報を共有し研鑽を図る。 ・近年では、デジタル機器を活用しながら授業に取り組むことが求められています。一方、デジタル機器に不慣れた児童も存在します。そうした児童に対しては、無理にデジタル機器を使用させるのではなく、児童にあった指導方法を採用していると聞き、児童に適した指導を実施していると思いました。
	6	<p>■東小は、コンピュータを活用する授業を推進し、充実させている。</p>	<p>◆「あげお学びのイノベーション推進プラン」に基づく学習者用端末の活用を具体化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OJTを含むICT研修の推進 ・大型モニタ、児童用PCの活用推進 ・プログラミング教育の実践 ・「chromebook」の積極的な活用 ・「Google Workspace」のスキルアップ 	A	<p>◆学校は、時代のニーズに合った教育を行うためにもICT端末の活用積極的に取り組んだり「英語活動・外国語活動・外国語」の授業スタイルの改善を図っていったりする必要がある。</p> <p>◆一年生にも一人一台端末を配付していく必要がある。方法等について検討していく。</p> <p>◆読書推進の取組として、ブックトークやビブリオバトルなどに取り組んだり、NIEに取り組んだりなどに挑戦してみてもよい。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観時、子供たちがコンピュータを使いこなしている姿におどろきました。 ・授業参観から大型モニタやchromebookを積極的に活用していることが伺えました。また、児童に確認したところ、日々の授業でも調べ物の検索やスクリーンショット等chromebookをよく使用していることが確認できました。 ・授業でのパソコンの導入が当たり前となり、児童にも近いものになる一方で、慣れへの格差が生じていると思われます。授業の内容理解の前にパソコンの使用が弊害となり、学習に遅れが生じないよう適切な指導をお願いします。
	7	<p>■東小は、英語に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図れる児童が育つように、外国語教育を充実させている。</p>	<p>◆全担任が、ALTとのコミュニケーションを図り、レッスンプランを計画し授業を進行できるように実践を積む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTとのコミュニケーションや連携 ・レッスンプランに基づく授業の展開 ・ALTと児童のスマイルタイム等の実施 ・担任が主体となった授業の構成 	A	<p>◆学校は、時代のニーズに合った教育を行うためにもICT端末の活用積極的に取り組んだり「英語活動・外国語活動・外国語」の授業スタイルの改善を図っていったりする必要がある。</p> <p>◆一年生にも一人一台端末を配付していく必要がある。方法等について検討していく。</p> <p>◆読書推進の取組として、ブックトークやビブリオバトルなどに取り組んだり、NIEに取り組んだりなどに挑戦してみてもよい。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の英語活動、4年外国語活動、6年外国語の研究発表会を参観しましたが、ジェスチャーを交えた楽しい授業で他の教科では見られない様子であった。 ・児童に確認したところ、授業の中で英語のクイズを作成するなどゲーム要素を取り入れ、飽きさせることのないよう工夫しています。また、低学年にはゲームやダンスなど遊びの要素を盛り込み英語に親しませるなど、学年にあった指導方法を取り入れています。 ・授業参観などを通して英語の授業は活気があり、子供たちが楽しく学んでいる姿が見て取れました。引き続き子供たちが楽しく学べる環境をお願いいたします。
	8	<p>■東小は、読書に親しむ児童が育つように読書活動を推進し、充実させている。</p>	<p>◆学校図書館を活用する読書活動を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団による読み聞かせ ・読書バイキング（教職員による読み聞かせ） ・学校図書館の環境整備 ・図書貸出の促進（一人2冊まで・週末読書の推奨） ・アッピースマイル学校図書館支援員、学校応援団との連携 	A	<p>◆学校は、時代のニーズに合った教育を行うためにもICT端末の活用積極的に取り組んだり「英語活動・外国語活動・外国語」の授業スタイルの改善を図っていったりする必要がある。</p> <p>◆一年生にも一人一台端末を配付していく必要がある。方法等について検討していく。</p> <p>◆読書推進の取組として、ブックトークやビブリオバトルなどに取り組んだり、NIEに取り組んだりなどに挑戦してみてもよい。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの応援団が増えて全クラス年6回は行っているが、まだまだ増やして子供たちの読書につなげたい。 ・金曜日の下校時に低中学年は、図書室の本を持って帰る児童を見かけるが、高学年は見かけない。 ・図書室がとても楽しい工夫がされていて素晴らしいと感動します。 ・読書パスポート、読書メダル、マジマジ券といった読書することが楽しくなるような取り組みを積極的に実施しています。

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
Ⅲ 豊かな人間性を育む教育（四つの心の育成）	9	■東小は、あいさつをする行動ができるように指導を充実させている。	◆年間の生活目標として、重点的に指導するとともに率先垂範する。 ・実態把握 ・日々の指導 ・教職員の率先垂範 ・朝会等 ・保護者に協力依頼 ・児童が主体となった活動	B	⑨学校は、「笑顔であいさつすること」と「すみずみまできれいにすること」を年間の生活目標として取り組んできた。進んで笑顔であいさつができる児童が増加している。「あいさつできる」という児童自身の自己評価も高い。 ⑩時を守る指導を引き続き行う。 ⑪学校は、正しい言葉遣いができる児童を育てるために授業中等に呼名するときには「さん」を付けて名前を呼んでいる。またていねいな言葉遣いができる児童を称賛したり、不適切な言葉遣い等があった場合には、粘り強く、継続した指導を行っている。 ⑫週当たりの清掃時間は減ったが金曜日の整頓時間などを活用して潤いのある学校づくりを行った。 ◆学校は、教師の率先垂範や児童会の取組、地域のあいさつ運動等に工夫を凝らしながら、継続していく必要がある。	B	・挨拶ができない子供が多い。挨拶は学校の指導だけでなく、家庭の躰。 ・（児童が主体となった活動は）どのような活動があるのか知りたいです。 ・あいさつ運動の時は、児童から挨拶がよく返ってくるが、朝の旗振りをしているときは、あいさつ運動の時よりも挨拶が返ってくるのが少ないと感じる。通常時でも、挨拶ができるようになるとよりよいと思います。 ・子供たちの挨拶は、地域の人たちとの関係性にも大きく影響してくると思います。挨拶することの意味なども含めて、強制でなく自発的にできるよう啓発をお願いします。 ・業間休みに校庭で遊んでいる時、チャイムが鳴っても遊び続けている児童がいる。 ・見ていないものは評価難しいです。 ・児童の姿を見ていると丁寧で優しい言葉遣いできていますと感じます。 ・女子は真面目に掃除するが、男子は野球のスイングのまねをしているのをよく見かける。 ・毎日の清掃でも汚れていくのに週2で誰がきれいにするのか代替策なく実施されたなら大変疑問であります。
	10	■東小は、時間を守る行動ができるように指導を充実させている。	◆生活目標に取り上げ、重点的に指導するとともに率先垂範する。 ・日々の指導 ・授業開始、終了時刻の厳守 ・学習準備とチャイム着席の指導	B	◆学校は、教師の率先垂範や児童会の取組、地域のあいさつ運動等に工夫を凝らしながら、継続していく必要がある。 ◆校内ではあいさつができて、校外で地域の見守りの方などへのあいさつが不十分であることの改善が必要である。 ◆学校は、丁寧な言葉遣いやびかもく清掃において、あらためて共通理解をし、粘り強い共通指導を継続していく必要がある。 ◆次年度は清掃の時間を基本的に毎日設定する日課に変更予定。 ◆チャイムや声かけによって行動することはできているが、自ら時間を見て行動することはできていない。中学校を意識させて指導していく。	B	
	11	■東小は、正しい言葉をつかう児童が育つように指導を充実させている。	◆生活目標に取り上げ、重点的に指導するとともに率先垂範する。 ◆場をわきまえたり、呼び捨てをしないで、丁寧で易しい言葉遣いで学習や生活ができるように指導する。 ・日常指導 ・授業での実践 ・学級指導 ・道徳科の時間 ・認める（ほめる）教育の推進 ・公的な場では「さん」づけを徹底	B		B	
	12	■東小は、もくもくと丁寧に掃除をする児童が育つように指導を充実させている。	◆生活目標の年間目標に掲げ、もくもくと集中し、心をこめた掃除ができるように清掃時間の指導にあたる。 ・日常の巡回指導 ・振り返りの実施 ・師弟同行 ・正しい清掃用具の使い方 ・放送による啓発 ・「プラス1」清掃 ※意識改革	B		B	
Ⅳ 健康・安全・体力向上	13	■東小は、保健、歯科保健、体づくりなどの健康に関する教育を充実させている。	◆感染症の防止、むし歯予防、体力向上に関わる児童の意識とスキルを高められるよう指導を充実する。 ・保健学習 ・歯みがきタイム、フッ化物洗口の実施 ・学校保健委員会の開催 ・学校医等との連携 ・体育授業の工夫	B	⑬着実に実践を重ねている。 ⑭下校指導等の際に安全指導を行ったり、計画的に避難訓練を行ったりしている。また登下校での地域の方の見守りや自転車交通安全教室等の実施している。 ⑮食物アレルギーによる事故防止のために、対象児童の全保護者と管理職を含めた面談を実施し、その上で対象児童の保護者と毎月、給食の献立の確認を行ったり、毎日複数の教職員で給食時間に確認を行ったりする等組織的な対応を行っている。 ◆学校は、日頃から安全に関わる未然防止教育にさらに力を入れたり、校内の過ごし方について定期的に指導をしていく必要がある。また、背説の老朽化など対応は迅速に行われなければならない。	B	・フッ素の塗布と食後の歯磨きの指導で、子供たちの虫歯は減少している。 ・マラソン大会は実践した方がよいと考えます。 ・地域の見守り隊が、街角や交差点で登下校の見守りをしている。低学年は学校から地域まで一緒に帰る。たまに他の地域も子供の要望により自宅付近まで送る。 ・下校後ですが、自転車の乗り方で危険を感じる場面を目にします。家庭との連携が必要と思う。 ・小学校前の横断歩道・入り口で、先生方が、毎朝交代で旗振り・見守りをしてきています。
	14	■東小は、生活安全・交通安全・災害安全の取組を充実させている。	◆けがや交通事故の防止、防災に関わる児童の意識とスキルを高められるようにする指導を充実する。 ・安全学習 ・安全点検 ・通学路点検 ・避難訓練、防災訓練、消火訓練 ・不審者侵入への対応 ・心肺蘇生法体験学習 ・自転車交通安全教室	B	◆学校は、日頃から安全に関わる未然防止教育にさらに力を入れたり、校内の過ごし方について定期的に指導をしていく必要がある。また、背説の老朽化など対応は迅速に行われなければならない。 ◆学校は、児童の体力向上のため体育授業や、東小スポーツdayを工夫して実施してきた。体力向上方策として、さらなる体育授業の充実を図っていく必要がある。	B	・給食便りは毎回充実した紙面で大変役立っている。 ・食育をどのように行っているのかわからないので評価難しい。 ・家庭科の調理実習では、児童が楽しそうに取り組んでおり、みんな積極的に調理に関わっていました。
	15	■東小は、食に関する指導を充実させ食物アレルギーによる事故防止にも丁寧に対応している。	◆バランスのとれた食事の大切さを理解させ、実践できるようにする指導を充実するとともに、食物アレルギーによる事故防止の取組を徹底する。 ・アレルギー対応マニュアルの実践 ・アレルギー対応児童の保護者面談 ・食育の充実	A		A	



・早寝 早起き 朝ご飯の啓発

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
V 教育環境の整備	16	<p>■東小は、安全・衛生・美化の観点から施設や校舎内外を整頓し、整備を進めている。</p>	<p>◆児童が安心して学べる安全で清潔で潤いのある教育環境の点検と整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月例安全点検及び臨時点検、点検結果への対応 ・小破修繕の実施 ・花壇の整備 ・市教育委員会と学校応援団、保護者との連携 	B	<p>⑯学校は、安全点検等により、施設等の維持管理に努めている。また、学校応援団の協力によるトイレ清掃、緑のカーテンや花壇の整備等の環境整備を支援していただいている。</p> <p>⑰学校は、児童の心が潤うような掲示を心がけ、計画的・意図的に児童の作品や掲示物を、掲示し整備している。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団は緑のカーテン、花壇整備、トイレ清掃を実施して校内美化に努めている。 ・今後はトイレなども市にかけ合ってそうじ業者を入れるなど（月1回）清潔に保つチェンジとチャレンジを。 ・児童の絵画や作品が適切に展示されています。また、音楽会で作成したものなどが校舎に展示されており、学校行事の思い出を大切にしていると思います。 ・学校応援団の方々が中心となり花壇の整備などをしており、子どもにも来校者にも気持ちよく迎える環境となっていると感じます。
	17	<p>■東小は、教室や廊下などに適切な掲示を行い、教育環境を整備している。</p>	<p>◆季節や行事、学習内容・指導内容に合わせた作品の展示や掲示物の作成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彩りや構成の考慮 ・あるべき所に必要な掲示 ・ユニバーサルデザインの考慮 ・児童作品の適切な取り扱い 	B	<p>◆学校は、児童にとって常に安心して学べる場所であるように、小破修繕を継続的に行ってはいるが、さらに市教育委員会と連携し、計画的に大規模な修繕も行っていく必要がある。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教室や廊下、階段に沢山の作品が展示されており学年が上がるにつれて、成長の過程がよくわかる。あの子「字が上手なんだ」と発見した時は嬉しい。 ・子供たちの掲示がとても良いと思います。 ・児童の絵画や作品が適切に展示されています。また、音楽会で作成したものなどが校舎に展示されており、学校行事の思い出を大切にしていると思います。 ・学校を訪問するといたるところに様々な掲示があり、児童の作品や英語の掲示、学校の取り組みなど学校の賑やかさがよく伝わっており、来校者にも気持ちの良い環境と感じます。
VI 保護者・地域・関係機関との連携	18	<p>■東小は、学校の方針や取組、児童の様子などが伝わるように積極的に保護者や地域に情報を提供している。</p>	<p>◆学校の方針や取組、教育活動の様子などが伝わるようにホームページや便りさくら連絡網等とおして、保護者や地域へ情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新 ・学校便りの充実 ・さくら連絡網の活用 	A	<p>⑱学校は、さくら連絡網やホームページを活用し、学校の様子や連絡事項について保護者や地域の方がへ発信してきた。特に、学校の教育活動についての情報発信を充実してきた。</p> <p>⑲学校は、PTA、学校応援団、おやじの会、学校開放委員会、青少年育成連合会等に協力をいただき、教育活動・教育環境の充実に取り組んだ。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページは毎月更新され、いろいろ「たより」が発信され、またさくら連絡網でも学校の他に教育委員会の情報も発信され充実している。 ・さくら連絡網を活用して、学校行事等が積極的に発信されています。また、学校運営協議会委員からの提案を受け、即座に学校運営協議会の傍聴の案内をさくら連絡網で配信していました。
	19	<p>■東小は、コミュニティ・スクールとして学校応援団（保護者や地域住民・関係団体等）の協力を生かして、学校運営や教育活動を充実させている。</p>	<p>◆保護者・地域の協力を仰ぎながら児童の登下校の安全確保や学習活動の充実教育環境の整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での熟議 ・PTA（おやじの会含む）、学校応援団等との連携 ・学校応援団感謝の会の工夫 	B	<p>◆学校は、情報を保護者や地域の方々によりわかりやすく伝えていくために、現在ある仕組みを最大限に活用し、工夫していく必要がある。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今、フリーに働ける人は地域の70歳以上の人たち（70歳まで仕事をしている人が多い）その人たちを学校活動に呼び込むにはどうしたらよいか。 ・コミュニティ・スクールという言葉自体地域にも保護者にも浸透していない。どんどんPTAも衰退してゆく中で誰が子ども達のために動いてどうやって地域・保護者と連携を取ってゆくのか「子ども達のための改革」を強く望みます。 ・学校運営協議会については、委員からの意見を取り入れながら柔軟に運営していると思います。一方で、PTA、おやじの会、学校応援団が活動縮小したこともありますが、地域の方々との連携については、以前よりも少し少なくなったと感じます。